

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

**大分青果センター
第2次施設が完成**
(大分県本部)

6-7面

**スタートアップインタビュー
輝翠TECH(株)**
(広報・調査部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら





大分青果センター第2次施設が完成

冷蔵庫の収容能力2.8倍、10トトラック60台分を保管

大分県本部

テーパーカットで完成を祝う関係者ら



同センターは、2019年に県内青果物の集出荷を効率的に行う拠点として設置し、トラック積載率の向上による輸送コストの抑制やコールドチェーンによる品質の向上に取り組みできました。

近年の取扱量は当初計画を上回り、今後もさらなる増加が見込まれることから、施設の拡張を行いました。冷蔵庫ス

ペースを2435平方メートル増



冷蔵施設を拡張した大分青果センター

とで収容能力を増強。さらに、物流課題(2024年問題)に対応するため、出庫口を3カ所から12カ所に増やし、出庫作業やドライバーの待ち時間の短縮を図っています。今後は、船便輸送や県域を越えた共同配送などによる積載効率の向上、多様化する消費者ニーズに対応した包装加工事業、JA・全農合同の分荷・販売チームの組成による販売力の強化に取り組みます。

大分県本部は5月17日、大分青果センター(大分市)の第2次施設整備の竣工式を聞き、関係者約100人が出席しました。冷蔵庫の収容能力を2.8倍に拡張し、10トトラック約60台分の青果物の保管が可能になりました。



全国納豆鑑評会で全農会長賞を授与

国産大豆使用率を高め需要拡大へ

麦類農産部

今回は全農経営管理委員会会長賞として小粒・極小粒部門で(有)ミドリヤの「みのり納豆ほのか」、大粒・中粒部門で道南平塚食品株式の「北海道の大粒くま納豆」が選ばれました。受賞したそれぞれの商品には北海道産大豆の「スズマル」とよまさり「ほか国産大豆が使用されています。大豆は輸入依存度の高い作物であり、国の政策で増産が目指さ

全国納豆鑑評会は、納豆日本一を決めるコンクールとして納豆の製造技術改善と品質向上を目的に毎年開催されています。審査は納豆の外観、香り、味・食感の3項目について評価しました。

全農は5月10日、東京・上野で開催された「令和5年度(第27回)全国納豆鑑評会」(主催:全国納豆協同組合連合会)の表彰式に出席し、全農経営管理委員会会長賞を受賞した(有)ミドリヤ(福島県)と道南平塚食品株式(北海道)に高尾雅之常務理事が表彰状を授与しました。

れています。納豆の国産使用比率は24%とまだまだ低い状況です。全農は鑑評会などを通じて、国産大豆の需要拡大を積極的に推進します。



受賞者に表彰状を授与する高尾常務

羽田空港第1ターミナルに看板広告

「Think Sustainable Price」テーマに3面で訴求

広報・調査部



南ウイング(左)・北ウイング(右)・ムービングウォーク壁面の看板広告

全農は5月2日、国産農畜産物の適正価格について生産者と消費者が共に考えていく「Think Sustainable Price」をテーマにした看板広告の掲出を羽田空港第1ターミナルで開始しました。

3月18日に公開した新CMには全農所属で全農オフィシャルアンバサダーの石川佳純さんを起用。食と農を未来へつないでいくために国産農畜産物の「持続可能な価格とは何か」を生産者と消費者がともに考える「Think

Sustainable Price」をテーマに制作しました。

その思いをさらに多くの方へ訴求するため、羽田空港第1ターミナル2階の北ウイング・南ウイングへ計2面、北ウイングコンコースのムービングウォーク壁面へ

1面の看板広告を掲出しています。

現在掲出中の「食と農を未来へつなぐ」「農協シリーズ」「JAタウン」の各バナー広告と併せて、空港を利用する幅広い世代に対して全農の社会的役割や国産農畜産物の消費拡大についてPRします。

「食と農を未来へつなぐ」「農協シリーズ」「JAタウン」の各バナー広告と併せて、空港を利用する幅広い世代に対して全農の社会的役割や国産農畜産物の消費拡大についてPRします。

親子29人招き3-R田植え体験会

農業に触れ 耕畜連携・資源循環ブランド学ぶ

広島県本部

広島県本部は5月11日、世羅町で資源循環型農業に取り組む生産者グループ「おぐにフィールド」の圃場ほしやうに29人の親子を招き、田植え体験会を開催しました。

体験会は、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R(さん・あーる)」の取り組みの一環として開催され、今年で3回目となります。実際に農業に触れながら、資源循環型農業の大切さや、農地の維持が環境保全につながることを学んでもらおうと企画しました。今年度は、田植え、稲刈り体験会に加え、野菜の苗植え体験会も実施する予定です。

当日は、3-R商品である「循環米せらにしあきさかり」の苗を参加者とともに手植えし、ドローンやラジコン草刈り機の実演、3-Rについてのワークシヨップも実施しました。

当日は、3-R商品である「循環米せらにしあきさかり」の苗を参加者とともに手植えし、ドローンやラジコン草刈り機の実演、3-Rについてのワークシヨップも実施しました。



29人の親子が3-R田植え体験会に参加した

News!



バスケット日本一を目指して！咲き誇れ

田植えで「HAPPY TOGETHER ONE」イベント

秋田県本部

秋田県本部は5月20日、プロバスケットボール男子Bリーグ1部に所属する秋田ノーザンハピネッツ、J.A秋田おぼこ、秋田県立大曲農業高校と田植えイベントを行いました。



「サキホコレ」のPRから秋田米全体を盛り上げる「HAPPY TOGETHER ONE」

この企画は秋田ノーザンハ(8)ピネッツ(2)が日本一(1)を誓う意味の「821」と秋田米新品種「サキホコレ」の系統名「秋系821」から「HAPPY TOGETHER ONE」と題して、「サキホコレ」の農作業体験を行うイベントです。収穫した米を秋田ノーザンハピネッツへ贈呈し、一層の活躍を応援するとともに「サキホコレ」をPRし、秋田米全体を盛り上げようと2021年度から実施しています。

イベントは、J.Aグループ「秋田米新品種サキホコレ」



手植え体験をする小栗選手(左)と元田選手

研究会」の佐々木竜孝会長の田んぼで行われ、秋田ノーザンハピネッツからは元田太陽選手と小栗瑛哉選手が参加。両選手は、田植え機の操作方法を教わり、真剣な表情で操縦に挑戦しました。その後の手植え体験では大曲農業高校生との会話を楽しみながら、一つ一つ丁寧に植えました。

選手は「いつも応援してくださる皆さんと田植えができていい機会になった。自分たちで植えた苗が収穫できる日を楽しみにしている」と話しました。

News!



農高生が「とやま和牛 酒粕育ち」販売

実習で育てJGAP認証シール貼って安全・安心をPR

富山県本部

富山県本部は5月3日、富山市内のAコープウィンズ食鮮館で、富山県立中央農業高等学校の生徒が肥育した「とやま和牛酒粕育ち」の店頭販売に協力しました。



「とやま和牛 酒粕育ち」をPR販売する高校生

販売した精肉は、生徒が実習を通じて繁殖から肥育までを手がけ、日本食肉格付協会の格付けで「A15・BMS12」の最高ランクに格付けされた牛肉です。当日は、牛を育てた生徒たちが売り場に立ち、おすすめの部位やおいしい食べ方などを来店客に直接伝えました。

また、同校の農場は昨年11月に北陸初のJGAP(畜産)認証を取得しており、販売する精肉のパックには「J

GAP認証農場」のシールを貼付。生徒たちはシールについて質問を受けると、「この認証を受けた農場は生産管理がしっかりしていて、安全・安心なお肉である証明になるんですよ」とPRしました。

生徒たちが育てた「とやま和牛酒粕育ち」は、Aコープウィンズ食鮮館のほか、南砺市のAコープなんとセフレでも数量限定で販売しました。



JGAP(畜産)認証取得を示すシール



出荷直売所を増やし商品充実

研修農場で就農希望者を支援

JAひろしまは、2023

年4月に県内の9JAが合併して誕生しました。管内は島しょ部や都市部、中山間にまたがり、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域の実現に向けて、水稻や野菜、柑橘、花き、畜産などの生産振興を図っています。

14力所の直売所を運営 地域の枠を超えた出荷へ

JAひろしまでは広島県本部と共同運営する「とれたて元気市」となり、14力所の直売所を運営しています。直売所の出荷登録者は、昨年5000人を超えました。商業施設内の店舗や行政と運営する農業交流連携拠点施設などもあり、幅広い農産物の出荷先として、生

産者と地域農業を支えています。

また、従来の出荷は生産者が所属する直売所に限られることがほとんどでしたが、23年10月から直営する7店舗の出荷要件を見直すことで、地域の枠を超えた出荷体制の構築を始めました。

直売所における出荷先の自由度向上と品ぞろえの充



JAと県本部が共同運営する「とれたて元気市となりの農家店」

実によって、管内産農畜産物の消費拡大と生産者の所得向上を進め、直売所を拠点にした地域活性化に取り組みます。



出荷要件の緩和により品ぞろえの充実が進む直売所

管内に3力所の研修農場 JAの子会社でも学ぶ

管内の三原市高坂町、府中市上下町、山県郡北広島

JAひろしま (広島県)



概要	2024年3月31日現在
正組合員数	7万3152人
准組合員数	11万1047人
職員数	2178人
販売品取扱高	174億9千万円
購買品取扱高	146億3千万円
貯金残高	1兆2581億7千万円
長期共済保有高	2兆4919億4千万円
主な農産物	米、柑橘、和牛、アスパラガス、トマト、ホウレンソウ、ワケギ、ネギ、キャベツ、エダマメ、キュウリ、ナス、ブドウ、菊、トルコギキョウ、リンドウ

町にはそれぞれ県本部が運営する新規就農者向け研修農場「チャレンジファーム広島」があり、2年間の研修を通じて就農希望者を支援しています。研修の1年目は野菜の栽培技術や機械操作、出荷・選別などを学びながら、次年度の経営計画を作成。2年目は実際に模擬経営を行い、経験を積んでいきます。



4月にはチャレンジファームで2年間の研修を終えた研修生が就農

また、研修生はJAの研修農場や農園、子会社の(株)JAアグリ三次、広島県果樹農業振興対策センターでも野菜や柑橘、果樹などの栽培技術を学ぶことができます。今後とも行政や関係機関と協力しながら就農希望者を支援し、独立後の安定経営まで支えていきます。



就農希望者を支援する「チャレンジファーム 広島・北広島農場」



国際色豊かなチームメンバー

農業用AIロボットを開発 人手不足の生産者を助けたい

輝翠TECH(株)代表取締役 タミル・ブルームさん

JAアクセラレーター第5期に採択された輝翠TECH(株)は宇宙探査技術を取り入れた農業用AI(人工知能)ロボットを開発するスタートアップです。代表取締役のタミル・ブルームさんに話を聞きました。

※JAアクセラレーターとは、JAグループの持つ幅広いネットワークとリソースを用いてスタートアップの事業成長を支援するプログラム

【広報・調査部】

AIロボット「Adam」 月面探査機の技術応用

事業について
教えてください。

日本の農業は、世界的にみても高品質な農産物を安定的に生産しているという特徴があります。その反面、一つの農産物生産に多くの時間と労力をかけなければならないという課題を抱えて

います。そこで当社は、高品質な農産物生産を維持しながら、農業従事者の作業負担軽減を目指した農業用AIロボット「Adam(アダム)」や、農耕データプラットフォーム「Newton(ニュートン)」を開発しています。

このような事業を
立ち上げられた
きっかけを
教えてください。

本事業を立ち上げたのは東北大学在学中に東北地方の農村地域の美しさを知ると同時に、その地域に暮らす生産者から人手不足などの深刻な問題を耳にしたことがきっかけです。

私は東北大学に進学するまでは米国で宇宙ロボットの研究をしていました。UCA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)でロボット制御を専攻し、修士号を取得後、ロボットの打ち上げなども行う航空宇宙メーカーSpaceX社でエンジニアとして働いたり、軍用ドローンの開発に携わったりするなどロボット開発の経験を積みました。

研究する中で、東北大学の吉田和哉教授の宇宙ロボッ



タミル・ブルームさん

ト研究に関心を持ち、来日。その時に初めて日本の農業の現状に触れました。障害物の多い地形を安全に走行するために、AIなどの技術を月面探査機にどのように利用できるかについて研究し、博士号を取得する傍ら、自分の今まで学んできたロボット工学の技術を生かして人手不足に苦しむ生産者と地域を何とか手助けできないかと2021年に輝翠TECHを設立しました。

農業用AIロボット
「Adam」について
教えてください。

「Adam」は、現在果樹農家の作業支援に特化しており、収穫場所から選別・出荷場所まで収穫した青果物を

自動運搬するなどして、繊細な作業が必要とされる収穫・選別作業に人が集中できるような環境をサポートします。

「Adam」の強みは、月面探査ロボットの技術を応用することによって、凹凸や傾斜の多い農園でもスムーズに移動が可能な点です。また、「Adam」の機能には重い物を積んだ状態で生産者の後ろをついてくる追従モードや、農園内の二つのポイントを往復するA to Bモードなどもあります。

このような機能は実際に生



農場を走る農業用AIロボット「Adam」

産者の方にロボットを使用してもらい、フィードバックをもらうことで改善を重ねてきました。

中小規模生産者も対象にJAグループと連携強めて

JA
アクセラレーターに
参画して
いかがでしたか。

当社を立ち上げた目的として、大規模生産者だけでなく中小規模生産者にも平等



路面状況が悪い農地でもスムーズな運搬ができるよう改良

にサービスを提供できる環境をつくりたいという強い思いがありました。同プログラムに参画することで、多種多様な生産者とその関係者とのつながりをつくることができました。

実際にプログラムの期間中、リンゴ、梨、柿、ブドウなどの果樹を中心に10カ所以上の地域で実証試験を行い、1時間当たりの収穫量が20〜30%増加したというデータも得ることができました。

今後JAグループと取り組みたいことはありますか？

当社は、日本中の生産者をサポートできるようにすることを目標としています。さらに多くの生産者にサービス対象を広げるためには、その生産者からフィードバックをもらえる環境は必要不可欠であり、その生産者とのつながりはJAグループの協力なしでは難しいと考えられています。今後もこのつながりを強め、生産者の求める機能を開発するとともに、当



果樹生産者の課題であった青果物運搬をサポート

社の開発がJAグループに還元できるようなWin-Winな関係を築いていきたいです。

今後の展望を教えてください。

現在は、一つのロボットで草刈りや農薬散布、収穫予測や防除対策のためのデータ収集など、農地でのさまざまな作業を可能にするためのアタッチメントを開発しています。今後は果樹だけでなく園芸品目などにも範囲を広げ、生産者の規模や作物、地域の違いがあっても共通して使用できるようなロボットを開発したいと考えています。

私は、現場で生産者の方と話し、当社のロボットによって恩恵を受けている姿を見られることが一番の幸せです。当社のサービスによって二人でも多くの生産者と農村の経済状況を改善するために、素晴らしい仲間と支援者とともに研究・開発を続けていきます。

輝環TECHのHPはこちら



使用事例
紹介①
YouTube



事業紹介
YouTube



使用事例
紹介②
YouTube



Adamを使用した
生産者の声
YouTube



ニッポンエール×タリーズ 宮崎県産「日向夏」で初コラボ フローズン飲料とシフォンケーキ 全国のタリーズコーヒーで販売

全農とタリーズコーヒージャパン(株)は宮崎県産「日向夏」を使用した「宮崎県産 日向夏スワークル[®]」「宮崎県産 日向夏のシフォンケーキ」の2商品を共同開発しました。全国に展開するスペシャルティコーヒーショップ「タリーズコーヒー」で6月5日から期間限定メニューとして販売しています。【営業開発部】

宮崎県産「日向夏」を使用した初のコラボレーションです。「宮崎県産 日向夏スワークル[®]」は、「日向夏」ならではの爽やかな香りとふわふわな白皮のほのかな甘酸っぱさを感じられるフローズン飲料です。

「宮崎県産 日向夏のシフォンケーキ」は、シフォン生地「日向夏」果汁を練り込むことで、清涼感ある香りと甘酸っぱい味わいを楽しむことができ、どこを食べても「日向夏」が感じられるよう仕上げました。



(左から)「宮崎県産 日向夏スワークル[®]」と「宮崎県産 日向夏のシフォンケーキ」



バーベキュー場に県産農畜産物を直送 「常陸牛」や「ローズポーク」、ソーセージ、野菜を提供



茨城県本部が運営する農産物直売所「ポケットファームどきどき」は、地方創生事業などに取り組む(株)Engiと提携して、県内のバーベキュー場に県産農畜産物を詰め合わせた食材セットを直送するサービスを提供しています。【茨城県本部】

この取り組みは、スタートアップ企業の事業成長を支援するJAアクセラレータープロジェクトをきっかけに、県内外から訪れる方に「地元の食材を味わってもらいたい」という両者の思いからスタートしました。

県銘柄牛「常陸牛」、県銘柄豚「ローズポーク」を使用した手作りソーセージ、旬の野菜などを詰め合わせた県産食材セットを提携のバーベキュー場へ直送しており、これからのバーベキューシーズンに向けてさらに利用拡大が期待できます。今後も県産農畜産物の魅力度向上、消費拡大に取り組んでいきます。



「常陸牛」などを詰め合わせた県産食材セット

JA全農の産地直送通販サイト



JAタウン ショップ紹介



JAみやぎき高千穂直販

釜炒り茶は15世紀前後に中国から伝わったとされ、九州の一部の地域でしか製造されていない貴重なお茶です。宮崎県の高千穂町をはじめ五ヶ瀬町、日之影町で構成する宮崎県西臼杵郡では、年間約200トが生産され日本一の生産量を誇っています。

日本に流通する緑茶の多くは蒸して作る煎茶ですが、釜炒り茶はその名のとおり熱した大釜で炒って作ります。「釜炒り」と呼ばれる香ばしいすっきりした香りと、まるでやかど胸がすくような爽やかな味が特徴です。

今回の商品「極(きわみ)」は厳選された茶葉のみを使用した風味、味ともに最上級の逸品です。



【新茶】高千穂釜炒り茶「極」……1296円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com